大日本コンサルタント

楠本 良徳社長

新規分野への挑戦 実を結ぶ

2022年6月期は「売上高が過去最高を更新した。増収減益ながら最終年となった中期経営計画の目標値は達成した」と語る。特に「エネルギー関係など新規分野への挑戦が実を結んできた。それがよく見えた1年だった」とし、23年6月期も「受注は順調に推移し、第1四半期の決算では初めて黒字を出した」と確かな手応えを感じている。

注力するゼロカーボン事業では「北海道三笠市、高知県梼原町とそれぞれ包括連携協定を結び、地域の資源である再生可能エネルギーを有効活用して地域の活性化、産業の活力に波及させていく取り組みを進めている。引き合いも多く、成功事例をつくりながら全国に展開したい」と展望する。豪州で製造したグリーン水素を太平洋島しょ国で利活用する日豪共同プロジェクトにも参画しており、「実証事業で得られる知見は国内外で活用したい」と見通す。

コアコンピタンスである橋梁設計では「量的（受注高・売上高）にナンバーワンを保持していくとともに、より高い品質を提供し、質・量ともに圧倒的な日本一を目指す」と強調。「長大橋設計や特殊橋梁の耐震設計」といった得意技術のさらなる高度化に加え、「AI（人工知能）やロボットなどを活用した維持管理の効率化、またウォーカブルなまちづくりに向けた事業支援など、時代のニーズに対応しながら領域を拡大したい」と語る。

7月のダイヤコンサルタントとの合併に向けた新組織づくりの準備が今後本格化していく中で、「両社の強みをうまく融合させながら、甚大な自然災害発生時の対応強化をはじめ、ワンストップで対応できる能力と領域を拡大していきたい。そのシナジーを社員が実感できるように取り組む」と力を込める。

人材の確保・育成では「キャリア採用を重要視」しつつ、「これから求められるコンサルタントの姿は大きく変わっていく」として、新卒採用では「幅を広げていく」考えを示す。「建設という枠を外さないとヒントをアイデアにできない時代になっている」という思いがあり「技術だけではなく、営業を含め会社全体で変わっていく必要がある」とみている。

他方、「AIがいくら発達しても最終的には優れた技術者の目は必要。基軸となる技術、それを支えるベテランの経験と知恵を伝承していくことも大切だ」とし、ウェルビーイングの観点からもベテランと若手の融合を図りながら「やりがいある仕事、挑戦する風土」の醸成に意を注ぐ。